

本を読むの大好き！

「読書離れ」の時代 〓 八日市場小の取り組み 〓



学校図書館「こころの泉」でお気に入りの本を手に

八日市場小学校が、平成20年度読書活動優秀実践校として

4月23日に文部科学大臣表彰を受けました。

これは、子どもたちが積極的に読書活動を行う意欲を高められるよう、同校が行っている優れた活動が高く評価されたものです。子どもたちの「読書離れ」が叫ばれる中、同校はどうやって、子どもたちが楽しく本を読めるようにしたのでしょうか。その独自の取り組みを紹介します。

子どもたちを取り巻く 環境の変化と「読書離れ」

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

しかし、近年はテレビゲームやインターネットなど、さまざまな情報メディアの発達・普及によって楽しみを得る手段が多様化してきています。

さらに、塾通いやスポーツチームへの参加など、子どもたちを取り巻く家庭や地域の

生活様式が大きく変化しており、子どもたちの「読書離れ」が指摘されています。

昨年5月に行われた全国学校図書館協議会による調査によれば、児童生徒の1か月の平均読書冊数は、小学生が9・4冊、中学生が3・4冊、高校生が1・6冊。また、1冊も本を読まなかった児童生徒の割合は小学生4・5%、中学生14・6%、高校生47・9%となっており、中学生以降極端に読書量が減少しています。

また、

八日市場小の取り組み

以前の八日市場小は、ほかの小学校と同様に「朝の読書の時間」があるくらいで、読書と国語の授業は、分けて考えられていました。

しかし、平成18年度に千葉県教育研究会学校図書館教育部会の指定を受け、国語を中心とし、他教科との関連を図りながら、読書教育を進めるようになりました。

その結果、今は国語の授業を中心に、関連する本も一緒に読むようになりました。具体的には、例えば5年生で宮沢賢治の「雪わたり」が教科書に出てきます。その時、ほかの作品の用意を市立図書館に依頼し、たくさんの宮沢賢治作品を子どもたちが読めるようにしています。

さらに、子どもたちが意欲的に読書できるよう、次の3つの取り組みを進めています。



子どもたちの声



本が好きになったよ
高橋将之くん
(6年)

以前はゲームが好きだったけど、読み聞かせを受けているうちに本が好きになって、図書委員会に入りました。



伝記物が好きです
鈴木海陽さん
(5年)

伝記物やシリーズ物の本が好きです。ボランティアの人たちの読み聞かせをいつも楽しみにしています。



学校図書館「ちしきの森」

また、「ちしきの森」の入口には子どもたちが作った「読書の木」があります。低学年で10冊、高学年で5冊の本を読み終えると、子どもたちは校長先生から本のしおり(読書賞)と葉っぱを1枚もらいます。その葉っぱに自分の名前を書いて、読書の木に張り付けるのですが、その葉っぱが増えるたびに、子どもたちは大きな達成感を感じているようです。

八日市場小では子どもたちの読書活動を応援するため、2つの学校図書館(蔵書数10、184冊)を用意しています。1つは読み物を中心とした「こころの泉」、もう1つは調べ物をする際に便利な「ちしきの森」です。子どもたちは、目的に応じて2つの図書館を使い分けています。



「読書の木」に葉っぱを張る子どもたち

取り組みその1

2つの図書館と「読書の木」

取り組みその2

ボランティアによる読み聞かせ



ボランティアによる読み聞かせ

保護者や地域の人たちでやる、読書ボランティアによる読み聞かせを、授業に積極的に取り入れており、授業の進み具合に合わせて関連する本を読み聞かせています。

隣接する市立図書館の協力を得て、図書館司書による図書の紹介や読み聞かせなどを行っています。

取り組みその3

市立図書館との連携



市立図書館司書による図書の紹介

校長先生のお話



本は親子の心の栄養です
八日市場小学校
校長 竹澤 実

本好きな子にしたいとは親や教師の誰もが願っていることです。読書は、学力の基盤である言葉の力を練磨し、豊かな心を育みます。このことから、私は、特に幼児期からの読み聞かせを推奨しています。就寝前に親が読み聞かせをすることの効用は、極めて高いものがあります。このことは、単に本好きな子を育てることだけでなく、親子のきずなを深め、親子の心のふれあいの場ともなるからです。

お母さんたちの声



子どものために読み聞かせを

読書ボランティアのお母さんたち
左から伊藤さん、越川さん、角田さん

伊藤さん... 6年生の子がいます。うちの子の場合、国語の授業で読んだ教材と同じ作家の本が読みやすいようです。読書ボランティアは、子どもたちのためになっていると実感しています。
越川さん... 2年生の子がいます。幼いころからスキンシップも兼ねて、夜寝る時に読み聞かせをしてきました。仕事で学校行事に出られないことが多いので、読書ボランティアに入りました。
角田さん... 6年生の子がいます。小さい時から読み聞かせをしてきました。子どもが興味を持ちそうな本は、いつも部屋に用意しておきます。読書ボランティアになっていただける方がもっと増えると良いのですが。